

平成27年度 星槎大学・大学院 学位記授与式

学 長 告 辞



本日ここに、関係者の皆様方の御臨席のもとに、めでたく平成二十七年度星槎大学学位記授与式を挙げるに当たり、学位取得者の皆様、並びに御家族、御関係者の皆様方に対し、心からお慶びを申し上げます。また、お足元の悪い中、公私ともに大変ご多用の中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様方、日頃よりのご指導、ご鞭撻に心より感謝を申し上げます。

本年度、星槎大学での学修を修了し、めでたく学位を取得された皆様は、共生科学部101名、大学院教育学研究科教育学専攻修士課程20名、計121名でございます。星槎大学らしく、ここ横浜を始めとして大阪、香川、沖縄をテレビ会議システムにて結んで行っています。

まずは、学位取得者の皆様、本日は誠におめでとうございます。道のりは決して楽なものではなかったでしょう。星槎大学の特長でもありますが、働きながら学ばれる方も数多く、まことに頭がさがる思いです。その中で学位の取得は社会的に、より一層の価値を有していることを強調させていただきます。皆様の学修ならびに学位の取得は、すでに最先端で活躍をされている皆様の活動を通じ、社会の改革に直結をするということです。そしてそれこそが星槎大学の意図するところです。

本学を含む「星槎全体の建学の精神」は創設者宮澤保夫先生の強い想いを言葉とした「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる」というものです。ご存知のように星槎の「槎」という字は木でできたいかだのことで、太さも長さも節の数も育った場所も異なる木材が束ねられて作られた「星のいかだ」です。

一人一人異なる私たち自身が、目と耳と心を開き、こどもたちの声や社会の振る舞いから学び、それを自らの羅針盤として進路を微調整しつつ、天空を進む「星のいかだ」です。お互いが相手の立場を認め、当たり前前に補い合い、共に各々の役割を生きることができるよう社会の創造に資するための仲間です。

さて、時代は東西冷戦時のアメリカ対ソ連という二つの軸から、ベルリンの壁が崩壊しその後アメリカの一極支配へと移行し、そして今、まさに次のステージへと移り変わってきております。これからの時代は「基軸なき時代」、各国、各民族、各宗教などが各々の課題や発展に合わせて個別に、かつ強烈に自己主張をしていく時代となっていきます。

また、2015年に国連が発表した世界人口予測によれば、2015年に73億5千万であった世界人口は2060年には100億を超え、2100年には112億1千万になります。2022年以降、インドは中国を抜き世界第1位の人口を有するようになり、2100年に向けて、アフリカでは大国ナイジェリアが7億5千万の人口となり、アメリカを超え世界第3位に。またコンゴも3億8千万と予測され、世界第5位の大国となり、アフリカの重要性はますます高まってまいります。またアジアも世界人口の43%を占めると予測されています。

一方日本は1億2千7百万人を数えた2015年から急激な減少傾向に入り、2050年を越える辺りから1億人を切り、2100年には8千3百万人の規模へと縮小をしていきます。さらにインドが世界一位となる2022年にはいわゆる団塊の世代の方々が後期高齢者となり、翌年にはインドがGDPにおいて日本を上回り、日本のGDPは世界第4位となると予測されています。

中東の動きも無視することはできません。歴史を大きく捉えると、一つの偉大な時代を作り上げたギリシャ・ローマの衰退後、その芸術や科学技術の多くは、その後も大国であり続けたイスラムの世界において保全されました。

そしてルネサンスの時期に再びヨーロッパ世界に里帰りをし、その後の産業革命へと繋がり、圧倒的なヨーロッパの覇権、すなわち列強の帝国主義として中東アジアを含めた世界中を席卷します。長い目でみれば、ヨーロッパと中東アジアは、押しては返す波のような様相を呈しています。

そして現在、アメリカ、ロシアなどの複雑な世界的・地政学的な関係性に影響されつつ、石油・天然ガス資源をベースに資金力を蓄えたイスラムの国家群と人口増加、特に貧困層の増加や水不足に悩み、政治的にも不安定な状況にある国家群が、中央アジアから北アフリカに至るイスラムベルトの中に混在し、ISの台頭や難民のヨーロッパへの流入という動きも生まれ、またテロに象徴される戦争の新たな形にも向き合わなければならない時代に入っていることは否定できません。

このような時代に「私たち」に何ができるのでしょうか。

昨年、星槎グループは神奈川県や箱根町、大磯町、小田原市にご協力いただき、2020年のオリンピックパラリンピック東京大会に向けて、アフリカの友人であるエリトリアの事前キャンプを誘致いたしました。

特に今までパラリンピックの出場経験がないエリトリアが、東京大会にて初のパラリンピックへの参加を表明いただいたことは大変意義深いものであると思います。またこの誘致は「民間が主導した誘致」としては日本で初めてのものと報道されております。

そのエリトリアは陸上の長距離や自転車レースなどにおいて世界的な強豪国です。その主都アスマラは標高2300メートルの高地にあるので心肺能力は非常に高い。彼らは決して立派なトレーニング施設で練習するわけではありません。むしろ野山やロードのアップダウンあるところを走ることによって身体能力の全体性を高めていると言われています。

「急勾配の斜面を走って降りる」ということをイメージしてみましよう。これは体の一つ一つの部分を強化したり、一箇所だけに全ての力を集中する、すなわち「細部への集中」によってなせる技ではないことは容易に想像できます。むしろ外部の情報と体の全てのパーツの包括的な調整があってこそ、初めてバランスを崩さずに、一定のスピードを持って駆け下りることができるのだらうと思います。技術の翠を集めた最新型のロボットでさえまだ実現できない、高度な全体性と細部の連動が必要な動きです。

星槎大学がその中心にそえる共生科学とはまさにこのような観点に立った科学であり、これからの時代に、より必要とされる学問であると考えます。一つ一つの専門性は大切なものです。しかしその専門性を横断的に捉えなおし、私たちの科学の営みが目指す先を忘れずに全体性の中で生かしていく知恵が必要です。

人と人、人と自然とが共生しうる社会の創造に向けた全体性を縦糸として、それを強固にしていく横糸として専門性を捉えるという体系からなる科学です。

Integrityという言葉があります。誠実さ、真摯さ、また完全性などの意味で使われることが多いですが、「触れられていない」「無傷な」という意味が語源です。「誰にも触れられずに全体性が崩されていない」ということから「完全性」という意味になっています。

このIntegrityという言葉の真に表すところは、断片的な知識を超えた体系性によって世界認識の基盤を捉えなおし、より一層の充実を図っていくことが必要だということです。これは逆に言えば専門性は何のためにあるのかという根源的な問いに対する解答と捉えても良い。体の部分部分を強化しても、急な斜面を勢い良く下っていくことはできない。

それには各部分を鍛えることも必要だけれども、路面や周囲の外部情報と自分の体の中の内部情報を整理し、全体を調整する力が何よりも大事だということです。専門性は、それを礎として、事象の連関性を見抜くための叡智である。その意味において専門性の高度化は非常に重要になってくるわけです。

星槎は創設者宮澤保夫先生の強い想いを大切に考える仲間の集まりです。星槎には保育園、幼稚園から中、高、大、大学院、そして公益財団法人世界こども財団やNPO、社団法人など多くの仲間がありますが、そのすべてにおいて共有してまいりたいと考える「三つの約束」があります。

それは「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」というものです。

相手を認め、排除せずに受け入れる積極性、そして相手の立場を尊重し、相手の身になって考え、共感的に相手を理解しようとする心のあり方が大切です。これは阿る（おもねる）ことや媚びることとは全く異なります。なんでもかんでも認めるのだということとも異なります。ときには対立することもあるでしょうし、緊張関係が続くこともあるでしょう、そうした状況を包含しつつ、最終的には社会において平等で調和的に生きていく豊かな関係としての仲間になることをめざそうというものです。

「言うは易く行うは難し」そのもので、私自身もまだまだ未熟で充分に実践できていません。しかし、だからこそ「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束を心に常に抱いておくことは意味があります。一つ一つはささやかな変化でも構わないので、三つの約束の実践を一緒に生み出していきましょう。小さな揺らぎから、大きなうねりを生み出す、それが可能な時代に私たちは生きています。

共生科学は実践科学です。本学での学修は実践に移してこそその学位です。それぞれのやり方で、できる範囲から結構だと思えます。「笑顔の連鎖」を生み出すべく、大いにご活躍を頂ければこれ以上の喜びはありません。

そして社会も変化し、学問も変化します。これからも常に学び続けることを忘れないでください。星槎大学は引き続きいつでも皆様をお迎えする準備をしております。本を読むように大学で学ぶ。そんな関わりもこれからの大学のあり方として、素敵なことだと思います。そして笑顔の連鎖を生み出す活動をご一緒できればと存じます。

結びに、「共生科学は社会を変える運動である」ことを確認させていただき、同時に学位取得者の皆様のますますのご健康とご発展を祈念し、学長告辞とさせていただきます。

平成28年3月19日

星槎大学 学長

井上 一